

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月4日

学校法人白藤学園 奈良保育学院附属幼稚園

1、本園の教育目標

奈良保育学院附属幼稚園は「あしたがまちどおしくなる幼稚園」を目標に、子どもの心に寄り添い、豊かな感性と伸び伸びと表現する力を引き出し、意欲や主体性を高める保育の実践に努める。また、健康な心と体を作る為に、食への関心を高め、体力向上に努める。

その他、保護者との連携を密にし、幼稚園の家庭的で和やかな雰囲気を大事に、安心して預けられる幼稚園を目指す。

2、本年度重点的に取り組む目標・取り組み

- ・子どもの主体性を育む保育の環境構成に努める。
- ・子どもの姿から見る育ちや学びを言語化・可視化し、保護者や地域に遊びの大切さや幼児教育への理解を促す。またドキュメンテーション作成を通して保育者の質向上に努める。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育内容と指導計画	B	「子どもが主体的に遊ぶ環境」を意識し、遊びの内容や子どものつぶやきや気づき、発見、ひらめきを大切にされた保育を実践した。子どもの姿から見る育ちや学びを捉え、指導計画作成を心掛けた。
2	保護者連携の工夫	A	ドキュメンテーションを作成し、アプリを通して毎日子どもの遊びや育ちを配信した。また、コロナ対策を講じながら参観できる機会を増やした。また、写真や動画を通して遊びから何を学んでいるかを説明する機会を設け、遊びの大切さを伝えた。
3	教育の質の向上	A	写真やエピソードを通して幼児の育ちを語り合う研修を実践し、子どもの姿から見る心の動きや学び、育ちを言語化・可視化することで、幼児理解や個々の発達の状態を共通理解し、保育に活かすことができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4、総合的な評価結果

評価	理由
	評価項目について、重点的に取り組んだ結果、全職員が子どもの主体性を伸ばす保育について考え、教育内容の充実に向けて、保育環境を見直すことができた。 また、連絡用アプリを用いて、園内の取り組みについて保護者向けに発信することで、遊びの大切さや幼児教育の理解を促し、さらに職員の資質向上にも繋げることができた。

5、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育内容と指導計画	引き続き、子どもが主体的に遊ぶ環境構成を研修し、保育計画作成や保育の実践に努める。
2	基本的な生活習慣の習得 (排泄、挨拶、食事、衣服の着脱、荷物の出し入れ)	園児の実態把握のもと、年齢に応じた目標設定をし、発達を促す援助の仕方を工夫する。 また、保護者との連携を密にすることで、園と家庭とが協力し合える関係を構築し、幼児の自立を促す関りができるよう、保護者への啓発を行う。
3	保護者との連携	三親会廃止に伴い、教育活動に保護者と共に取り組める工夫をし、子どもを真ん中に、保護者と園、地域が協力し合える関係を構築する。

6、学校関係者評価委員会の評価

- ・ スマホは便利であるが、手紙で確認したい物もある。
- ・ それぞれの取り組みはよく考えて進められており、保護者アンケート結果からもそれがよくわかる。
- ・ アプリでの配信を見て、ちゃんと子どもを見てもらえて良かったと思う。保護者は写真を好むが、写真に捕らわれず子どもとしっかりと関わりをもつことも大事だと思う。
- ・ ドキュメンテーションが先生方の負担になっていないか心配だ。毎日の様子を配信しているが、一週間まとめて配信することでその週のプロセスがわかって良いのではないか。
- ・ 今後の保護者への伝え方を工夫していくことが必要だと思う。
- ・ 三親会廃止に伴い、今後の行事の三騎壺の仕方を工夫する必要があると思う。